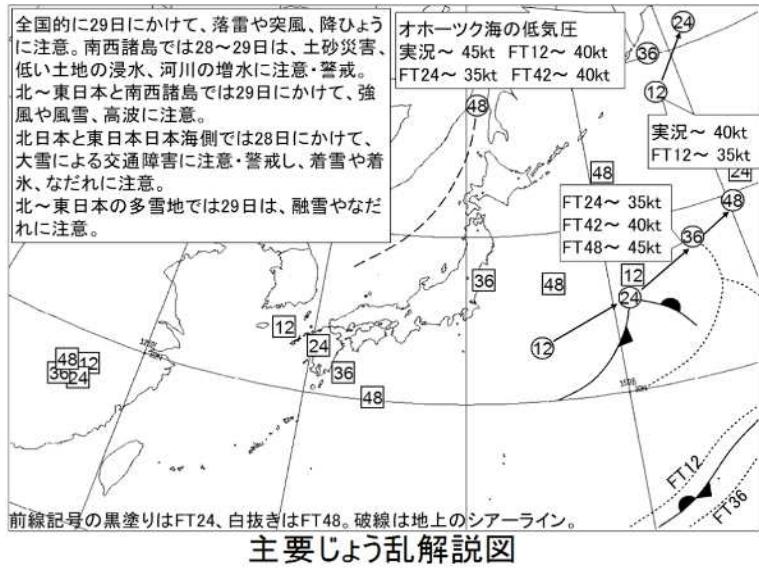


短期予報解説資料 2025年12月27日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① サハリンの500hPa 4980m付近の寒冷渦に対応して、オホーツク海、カムチャツカ半島付近、千島近海に低気圧が連なる。
- ② 黄海付近を東に移動する高気圧が、西～東日本付近に張り出しているが、日本海と伊豆諸島付近は気圧の谷となっている。
- ③ 850hPaで-6°C以下の寒気が、西～東日本に移流、北日本と東日本日本海側の山地では3時間で5～10cm前後の降雪を観測。①の低気圧や②の気圧の谷の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くしきている所がある。



2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 27日は、オホーツク海の低気圧はほとんど停滞、カムチャツカ半島付近の低気圧は北上して不明瞭化、千島近海の低気圧は千島の東に進む。黄海付近の高気圧は、対馬海峡付近に移動。日本海の気圧の谷は、北～東日本日本海側に進む。
- ② 28日は、2項①の千島の東の低気圧は、カムチャツカの東に進み、気圧の谷は千島の東に進む。対馬海峡付近の高気圧は、日本の南に移動し、夜までに三陸沖に別の高気圧が発生する。
- ③ 29日は、日本の南の高気圧はほとんど停滞、三陸沖の高気圧は日本の東に移動。朝までに間宮海峡付近に発生する低気圧が、サハリン付近に進み、低気圧からのびるシーラインが北日本に進む。
- ④ 29日にかけて伊豆諸島付近と南西諸島付近は気圧の谷となり、29日夜には沖縄の南で低気圧が発生。
- ⑤ 2項①～④の気圧の谷やシーライン及び低気圧の周辺では、大気の状態が不安定となる所がある。全国的に29日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。また、南西諸島では28～29日は、強い雨や激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ⑥ 850hPaで-6°C以下の寒気は、27日は西～東日本付近に停滞、28日は津軽海峡付近に北上、29日は宗谷海峡付近に北上する。北日本と東日本日本海側では28日にかけて、2項①②の気圧の谷の影響で、降雪が強まる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪や着氷、なだれに注意。また、29日は、850hPaで平年差+5°C以上の暖湿気が、北～東日本付近に流れ込み、2項⑤の降水の影響も加わり雪解けが進む。北～東日本の多雪地では、融雪やなだれに注意。
- ⑦ 2項①～④の気圧の谷やシーライン及び低気圧の周辺や高気圧の南縁では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北～東日本と南西諸島では29日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)は無い。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：東北40、北海道30、北陸25cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北4、北陸・伊豆諸島・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。